

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590400255	
法人名	医療法人 仙知会	
事業所名	グループホームかけはし	
所在地	秋田県大館市松木字大上122番地5	
自己評価作成日	令和2年9月16日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
訪問調査日	令和2年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

4月1日から2号棟増設となり2ユニットになりました。新年を迎えたころからコロナ感染症が出始めて、思うように入居者様の希望どおりに支援できず残念に思います。入居者様の望まれる気持ちを大事にし、安心して暮らせるように支援したいと思います。田圃に囲まれていますので、季節ごとの稲穂の実りを感じとっていただければと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大館の玄関口である大館駅が眺められる場所にある。夫の出稼ぎ、子供の上京など見送った場所として思い出があり感慨深い利用者も多い。大館市の夏の終わりを告げる大文字祭りがあるが、その大文字焼きの山も眺望できる。周囲には田んぼが広がり四季を感じることができる。自然を感じながらも、買い物や医療機関など利便性は良い。法人で数多くのグループホームや有料老人ホームを運営しており相互扶助の関係性にある。また地域の方や市の担当者など外部の人々の目を通し、理解を得られ地域に開けた、地域とのつながりを大事にしている。利用者一人ひとりのその時々思いに寄り添い、その人らしく暮らせるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目に付く場所にはかけはし理念を掲げており、全職員で日頃から共有し実践しております。	住み慣れた地域で、笑顔でゆっくりとその人らしく暮らしてほしいという思いを拠り所とし、利用者の生活を支えている。理念について職員間で話し合いを定期的に行っているが、開設当時から理念は根本的な考え方とし継続している。都度話し合いや申し送りノートで意見を出し合いケアに反映されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々とは、散歩時会ったりすると挨拶を交わしますが、コロナの関係で日常的な交流は控えております。	町内会に加入している。利用者と一緒にゴミ出しや散歩の際に挨拶や会話を交わす等、地域社会の中で当たり前の暮らしを継続している。事業所の行事、運動会や御輿といった地域の行事など相互的な交流を図っていたが、現在の世情から制限をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議や施設見学を通じて認知症の方への理解や支援内容を伝えております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所担当職員、地域包括支援センター、町内会会長、副会長、民生委員の方に参加して頂き、日常生活の報告をし情報交換しております。	コロナの感染状況をみながら厚労省の通知に準じ書面でのやりとり、または開催と定期的に行っている。会議では事業所の報告とともに、参加メンバーからの助言や意見をサービス向上のために活かしている。入所時の利用者の把握事項についてや雨降りの際に軒下があれば外出しやすいなどその時々の課題やそれぞれのメンバーの視点から積極的に意見が出されていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて状況報告をさせて頂いております。また、市町村担当者からご指導や助言を頂いております。	現場や利用者の課題について直接出向いて相談したり、情報をもらうなど積極的に連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束について、年2度の研修会に参加しております。また市町村担当者からご指導や助言を頂いております。	身体拘束の事例はなく、帰宅願望のある利用者についても話し合い対応している。前回、課題となっていた身体拘束適正化検討委員会の記録の整備についても、専用ファイル化とし、また研修書類等の管理も行われていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会やマニュアルを常に目を通すように努めております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については、機会があれば学び支援できるようにしたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時において納得して頂けるように説明させて頂いております。また改定時は、内容をお知らせしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様の要望はなるべく実現出来るように支援しております。今の所コロナ感染症防止の為、控えております。	利用者の状況を報告しながら、話しやすい雰囲気作りを配慮し、引き出す努力をしている。また、日々の支援の中で利用者の意見、表情などから思いを汲み取りケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングで職員の意見を聞きながら、上司に許可を得て反映しています。	ユニットが増設されトイレ、風呂の位置、避難路など各所に職員の意見が活かされている。また、職員の配置など利用者への影響を配慮しながら働きやすい環境作りをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況、労働時間等に関しては本部人事労務課で状況を把握し、職場環境・条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員との個別面談を適宜行い、職員一人ひとりのケアに努めています。法人外研修の機会を設け、費用は法人で負担しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の青森県弘前グループホームさくらや、能代グループホームまつかぜと連携を図っています。ネットワークを通じての交流や連携を通じてサービスの向上に取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様とコミュニケーションを取りながら、困りごと等に傾聴し、安心して生活できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期面談において家族様の希望や要望を傾聴し、信頼関係を築けるように努めています。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、それぞれに出来る事を手伝って頂き、共に生活し、信頼関係を築けるように努力しています。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在はコロナウイルス感染防止の為、電話で近況報告を本人様と楽しまれたりしております。また時間制限しておりますが、面会を楽しまれております。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症防止の為、馴染みの方については、ご理解して頂いております。	買い物や『肉の博覧会』など地域で行われるイベント、墓参り、家族と一緒に選挙の投票に行かれるなど地域とのつながりや一人ひとりの生活習慣を尊重し支援してきたが、現在は難しい状況にある。その中で、紅葉ドライブなど感染を予防しながらできる支援を企画、取り組んでいる。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を常に把握しています。また孤立しないように支援しています。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の関係は、必要に応じて支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の思いを大事にし、生活において希望をお伺いして、出来る限り実現できるように支援しております。	手を握るなど触れ合いから安心感を与えたり、日によってばらつきのある症状にも対応したり、利用者の思いを引き出している。認知症を理解し、寄り添い対応している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴については本人様や家族様、及び前任の担当ケアマネから情報収集させて頂き現在の生活につなげている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタル測定や排泄状況、食事の摂取量と水分摂取量を把握し、その人個人の1日の過ごし方を見極め、個人に合った支援ができるように職員間で共有し、把握しています。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様や家族様の意見、希望などを取り入れた個々のアセスメント、月末のモニタリングを繰り返してその時に合った介護計画書の作成をしている。	アセスメント、モニタリングを繰り返し、設定期間ごとの見直しまた変化時には、家族やケアマネジャー、職員などが担当者会議で話し合い、それぞれの意見を反映した介護計画となっている。	介護員、ケアマネジャー、それぞれのモニタリング様式がある。効率的、有効的に職員全員が共有できる工夫に期待したい。また、計画の内容が変更になった経緯や計画が未達成となった時にどうしたら達成できるか掘り下げるなど個別の支援が『見える化』することに期待したい。
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケースや連絡ノートに日中間わず様子を記録し、職員間で共用し、今後の計画見直しに役立っています。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な運営推進会議を開いています。市や包括支援センター、町内会会長、副会長、民生委員から参加をして頂いております。また避難訓練では、消防署からの協力及び助言等相談協力を得ています。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	継続的な医療を受けられるよう、生活状態や、心身状態を報告しながら、本人の希望を大切にしながらかかりつけ医により支援して頂いております。かかりつけ薬局には薬を届けてくれるよう協力して頂いております。	本人、家族の希望する医療機関の継続が可能である。家族対応の際には、バイタルや排泄・生活状況など情報を提供している。家族の対応が不可能な時は職員が対応している。家族との受診状況の共有を図り、また職員間の情報共有は申し送りノートで行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医院とは連絡を取り合っていますが、看護職は在籍しておらず訪問看護については、今のところ相談協力はしていません。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と共に早期退院にむけた話し合いを出来るように、努めています。療養に必要な情報交換を進めております。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明しています。施設でどこまで対応できるか把握し、必要時は地域関係者と共に支援しています。	契約時に看取りを行わない方針であり、できることを説明している。症状の変化と共に説明し、段階的な状況を共有しながら必要なケアが提供できるよう対応している。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急の対応マニュアルを作成をしています。以前に応急手当や意識低下時の実践訓練を受けた事があります。利用者様の急変時には、救急車を呼ぶようにしています。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導に基づいて緊急時の避難訓練を年2回実施しています。また、近郊住民の連絡先を常に職員が見えるところに掲げています。常備食、ランタン、反射ストープ、発電機の準備をしています。	火災や地震など想定される避難訓練を昼夜設定で実施している。避難路は多方向にあり発生場所により避難ができる。運営推進会議でも報告し、町内会長から避難場所についての助言など具体的な災害対策について確認している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格やプライドを損なわないように、個々に合った声掛けし対応してます。	研修計画に入れ込み、理解を深めている。ポータブルトイレ使用時や排泄用品の配置、処理の仕方など細かく配慮している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、職員はコミュニケーションを図りながら希望や思いを傾聴し、多く実現出来るように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者様が日々楽しく生活できるように、個々のペースに合わせて支援しています。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪、整容、お化粧品等好みの品物を持参しており使用しています。また2ヶ月に1度のペースで、馴染みの理髪店から散髪をして頂いている方もいらっしゃいます。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に下準備や後片付け等手伝って頂いております。食べこぼしのサポートや、盛り付けにも工夫して楽しめるように支援しています。	法人内で配食サービスを行っており、管理栄養士が作成した献立表により栄養バランスが取れた食事となっている。それを、畑で育てた野菜や山菜など旬の食材や調理法など工夫し、地域の慣れ親しんだ食事を提供している。利用者は食器拭きのほか、山菜や野菜の下ごしらえなど有する能力を発揮している。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量、水分量の把握をしています。個々の体調や主治医の指導のもと支援しています。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の清潔保持を支援しております。特に夕食後は義歯洗浄剤を使用して清潔保持に努めています。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のパターンに合わせて、自立した支援をしています。	排泄表を使用し、羞恥心に配慮しながら利用者一人ひとりの状態に合わせ、排泄用品や対応を行っている。申し送りなどで状態を把握し、支援内容を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄パターンを把握し、水分摂取や食品に工夫し努力しています。また、体操への声掛けや、廊下散歩の見守りを支援して便秘解消に努めています。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日々の健康チェックをし、体調観察や意見を取り入れて、ゆっくり楽しんでいただけるように支援しています。	入浴拒否があっても職員を替えて声掛けをするなど工夫しながら、無理強いせず週2回は入浴できるよう支援している。手摺りの増設や回転椅子など状態に合わせて安全に入浴できる環境を整えている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握しています。時には状況に応じて原因究明をしたり、温度調整したりし安眠に向けて支援しています。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容が分かるようにファイルを設けています。服薬時の誤嚥や飲み忘れがないように支援しています。また、状態変化があれば家族様や主治医へ報告しています。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の楽しみ方にそれぞれの違いがあり、他利用者様に配慮しながら生活できるように支援しています。また、主治医の指示により嗜好品制限されている方は、周りに配慮しながら支援しています。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症防止の為、本人様やご家族様へは通院以外の外出は、ご理解をしております。	受診後、家族との外食や自宅に帰られる利用者もいる。散歩や野菜の収穫など戸外に出て気分転換ができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は本人様の意思や家族様の希望を反映し買い物代行しています。個人で所持している方には、周りに配慮しながら、助言や支援をしています。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の家族様から、連絡手段は電話であります。家族様からの電話には、取り次ぎを支援しています。郵便物は、本人様に渡しています。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間や居室は、室温調整と照明調整を常にし不快感がない様に支援しています。また共有部分には入居者様と共に作成したりポップ等を展示し、楽しい空間作りに努めています。	利用者一人ひとりの能力を活かした作品が飾られ和める雰囲気となっている。大きな時計にしたり利用者が迷わないように工夫したり認知症に配慮しながら安心して安全に暮らせる空間となっている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が思い思いに過ごせるように、安全面や体調面に配慮しながら座席の配置をしています。日々、テレビ観戦やパズルゲーム、席の移動での会話等を支援しています。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 r居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時ご本人様やご家族様と相談し、必要な品物、及び見慣れたテレビを持参して頂いております。	各居室の温度設定が可能なため、一人ひとりの快適な室温となっている。テレビやぬいぐるみ、写真などを持ち込み安らぎにつながっている。利用者の認知症状や身体状況に合わせて安全に過ごせるよう工夫している。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部全体においては、安全性を重視した移動ができ、一人ひとりが自由に生活できるように工夫しています。また、居室を間違えないように造花で入り口を飾ったり貼り紙したりし支援しています。		